慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ベーア版 ロバアト・ オーエン自伝
Sub Title	
Author	加田, 忠臣
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1920
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.14, No.12 (1920. 12) ,p.1797(147)- 1800(150)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19201201-0147

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ならぬ一大革命なり。國家的自覺の旺盛となれる今日國家をしかく無能力のものたらしめんとするは明かに無政府主義的思想なり。吾人を以て之を見れば英國のギルド社會主義は佛國のサンヂカリズムよりも寧ろ危險なる無政府主義なり。吉野作造博士が『若し現代の政治、殊に戰爭と云ふ熔爐を潛つて來たデモクラシーの政治を理解せんが爲の參考書として讀まふと云ふなら是非共ハルンショーに行かなければならぬ』と評したるハルンショーはギルド社會主義を評して It is a hare-brained academic scheme と呼べり。

なほ議論の本旨と關係なき一二の誤謬を擧げてこの稿を終らん。四八四頁にクレマンソーが軍隊の力を藉りてサンヂカリストの鐵道大罷業を征服したりとあるはブリアンの記憶違ひなること、八十二頁に中央黨のエルツベルガアのことを社會黨員のエルツベルゲルさへも斯く云へりと記せると同じ。又一七八頁に露國が宣戰に際して擧國一致なりきと說けるは社會民主黨の宣戰反對を無視せるものにて隨て次の頁に大赦を行はざりしことを責むるは酷なり。一八一頁に開戰當時に於ける露國議會の議員政黨別を擧げて立憲民主黨に就て一顧だも與へざるも遺漏なりと云はざるを得ず。殊に英人に關する記事に於て一二の誤謬を指摘し得るは吾人の意外とする所なり。即ち五二頁に『抑々ロアバルン伯は開戰當時迄アスキス內閣の大法官として上院の議長たり所謂る英國皇帝良心の保管者たりし人也』と云ひ、更に五六頁には『伯は開戰の當初迄此の政府に在り開戰の際にモルレー卿等と共に其職を去りたる一人也』とありて反覆ロアバアン伯の開戰の當時迄閣員たりしことを叙しあれど、ロアバアン伯は一九〇五年より十二年迄大法官の職に在りしのみ、眞逆にモオレー卿と共に挂冠せしバアンス氏とロアバアン伯とを混同せしにもあらざる可し。又四八〇頁に內閣員中の少壯有爲者の一人バアケンヘッド卿、六三〇頁に上院議長バアケンヘッドの宣言とあれど、米人は卒ざ知らず英人はバアクネッドと云ひてバアケンヘッドとは云はず。（田中萃一郎）

ベーア版「ロバアト・オーエン自傳」

The Life of Robert Owen by Himself with an Introduction by M. Beer. 1920. (Bohn's Popular Library)

丸善賣價一圓二十五錢

ロバアト・オーエンは英國社會主義運動における先達であり、さうして彼はシャアル・フリエ、サン・シモンとともに三大空想的社會主義者として有名である。「空想的社會主義者は社會の缺陷即ち其の痴愚、不公正を社會に示すことにより、又その希望と洞察とによつて建設せられた社會改造の計畫を敎ふることによつて、社會を一新することが出來ると考へたのである。彼は人類がその力を知ると、知らぬとに拘らず人類の上に社會的變革を齎らすことの因果を見ず、たゞ彼等の計畫の內にある合理性が民衆の覺る所となつて、實行の運びに至ると信じたのである。彼等は文明の混亂と貧困とその計畫した新世界の秩序と幸福とを比較對照して民衆に示すことにより、民衆が社會主義にその希望を繫ぐに至らんことを望んだのである」。（W. Morris & B. Bax. Socialism: its Growth & Outcome. p. 158）

ロバアト・オーエンが千七百七十一年五月十四日ノース・ウエルズの片田舍であるニユウタウンに其の生を享けてから、千八百五十八年十

一月十九日、八十七の高齢を以て、その故郷にこの世を去るまでの長い一生は實にその社會的理想を實現しやうとした歴史である。彼は年漸く十歳にして、四十志の金を懐にしてロンドンに赴き、スタムフォードに、マンチェスタアに商店員として其の手腕を振つた。彼の實業界における成功は急速なものであつた。彼は二十幾歳にして當時デール氏の所有であつたニュウ・ラナアクの紡績工場を共同出資を以て買取り、多大の利潤を擧げることが出來た。けれども彼は世の常の貪慾限りなき資本家とその趣を異にしてゐて、千八百十三年に至つて、ニュウ・ラナアク紡績工場の配當を五分に制限する組合を組織し、その餘剰を以て勞働者幸福增進の施設を試みた。この千八百十三年はまた彼の處女作「社會新論又は人格構成論」の出版された年である。彼はこの書中に人間の性格が自然と社會的環境によつて支配される事實を力説し、その人性説を樹立し、社會改造論に基礎を與へた。而してこの人格構成論を理論的根據としたオーエンの理想的共產社會は千八百二十五年北米インディアナ洲に建設されたが、そは二年間にして失敗した。彼はこの理想社會の建設に失敗し、その所有してゐた財產を失つたけれども、その社會的理想はその死に至るまで消えなかつた。彼は勞働券による利潤の廢止を考案し、その他の社會的事業に貢獻した。けれども彼の理想は遂に實現の期を得なかつた。

エンゲルスはその科學的社會主義の立場から空想的社會主義を批評して次のやうに言つた。「資本主義的生產並に階級的狀態の成熟せざる狀態においては亦未熟の思想を生む。社會問題の解決は、當時猶ほその未發達な經濟狀態の中に潛んでゐたのであるが、彼の空想家等は之を人間の腦髓の中から產み出ださうと企た。社會は悉く惡を現じてゐる。此の諸惡を除くは即ち道理の任である。故に一層完全な新社會組織を發明して、傳道の方法により、また出來るならば模範的の實例により外から之を社會に課することが必要になつた。然るに是等の新社會組織は固より空想的の運命を有したもので、その細目が完備されれば、される程、愈々益々純粹な幻想に陷るを免れなかつた」。(Socialism p. 58.)

然し乍ら、科學的社會主義の唯物的傾向に滿足しないギルド・マンはオーエンへの復歸を叫んでゐる。「世はオーエンの思想に歸りつゝある。オーエンは勞働者はそれ自らの生活を統御する爲めに生產をにふ手段を創造せねばならぬとした。彼はある一定の計畫によつて作られた一大團體の内にすべての勞働者を包含することを目的とした」。(Cole & Mellor:—Industrial Freedom. p. 14.)この點においてギルド社會主義は正にロバアト・オーエンへの復歸である。

かゝる期に當つて、ロバアト・オーエンが千八百五十七年から五十八年に渉つて出版したその自傳が再び印刷に附せられたのは、時勢の要求とも云ふべきである。自傳はその筆を彼の誕生に起し、彼がニュー・ラナアクにおける勞働者生活改善の事業を叙述し、千八百二十年頃までの出來事を書いてゐる。この書の中に我々は彼の社會觀を赤裸々に見ることが出來ると同時に、オーエンその人が事を爲すに當つて研究心と、勇氣と自信とに富めるを知る。私は世人が所謂英雄豪傑の傳記に時を費す餘裕があつて、この人類の爲めの恩人の自傳を觀過するならば、決して公平でないと共に、その人の損失であると考へる。卷頭には英國社會主義史の著者マックス・ベーア氏の序文が載せてある。私は

この書を以て、近來の貴重なる文獻の飜刻であると云ふことが出來と思ふ。（加田忠臣）

落合昌太郎著　**社會生活學**

平安堂書店發行
定價壹圓五拾錢

目慣れぬ標題であるが內容は經濟理論である。現在の經濟學に不滿を感じ、在來の因襲を脱して「經濟學を科學として完成することを期して」書いたものだと著者は序文の中に云つて居る。全篇三百十二字二百六頁のものであるから量に於ては小冊子に過ぎないが、輪といて見ると在來經濟學書の讀者には決して讀易い本ではない。それは著者が殆ど全く在來の系統術語を踏襲しないで、全然新たに一の學問の結構を試みようとして居るからである。恐らく價値と價格の二語を除くの外、著者は從來の經濟學用語を一つも採用してないと云つてよからう。本書の長所も短所も無論此點にあるべき筈である。

限られた紙數內で讀者に會得の出來るやうに本書の內容を紹介するのは困難であるが、先づ其一端を記すと、抑も生活の目的は一個滿、二安寧、三愉樂であるが、原始時代を脱すると「時世の變遷と共に生活の實質に種別を生ずるに至る」。一は直接的生活、二は間接的生活である。而して衣服を着る爲めに裁縫するのは直接生活で、他人の衣服を裁縫し其報酬によつて衣食せんとするは間接生活であると云ふに徵すると、直接間接生活の分岐は所謂交易經濟の成立によつて生ずるものと見て好いらしい。然るに間接生活を營むと云ふことは本來己れの欲するもの得んが爲めの手段として或他のもの（物か廣義の勞力か）を提供するに外ならぬから、間接生活に對する能力は著者の所謂供給能力である。之に對して直接的生活に對する能力を需要能力と云ふ。併し落合氏の所謂需要能力は經濟學で云ふ購買力を伴ふ要求の意味ではなくて單なる享受(Geniessen)力を意味して居るらしい。

さて右兩樣の生活の對象となるものを名づけて資財と云ふ。茲に謂ふ資財の中には普通經濟學で云ふ財は含まれては居るが、それよりも遙かに範圍の廣いものである事は論を俟たない。その次に來るのが攝用である。攝用は、從來の術語を强いて之れに宛てはめれば經濟行爲であるが、其範圍は遙かに廣い。著者に從へば「生活能力の表現、若しくは實行を攝用と名付く、生活人格者が其生活能力に依て或る對象に接觸する場合を云ふ」のである。この攝用に三種ある。一、資財を消費する攝用、二、資本を使用する攝用、三、資財を變化する攝用であるが、說明を讀んで見ると三は從來の生產、一と二は廣義の消費に歸着するものらしい。さて生活能力の表現が攝用であるから、攝用にも需要攝用と供給攝用とがあるのは當然である。斯うして價値の問題に近づいて行く道筋はよく分る。不幸にして價値其者の說明は未だ評者によく會得されないが、「資財の生活的算定」であるところの價値を分つて需要攝用に於ける價値と、供給攝用に於ける價値との二にして居るのは demand price と supply price との別と相通ずるところがあるやうに思ふ。而して「攝用が實行さるゝ場合の資財の價値……需要攝用者の主觀的價値と供給攝用者の主觀的價格（sic）とが一致したる算定を」價格と云ふ。「價格の基準」なる一章は從來の言葉で云へば價値尺度を論じたものらしい。茲で普通不熟練勞働者の生活費（即ち收入）を以て價値の尺度とすべしと云ふらしい議論が發展しかゝつたと思ふ間もなく中止されて居るのは